

2016年7月14日 全8頁

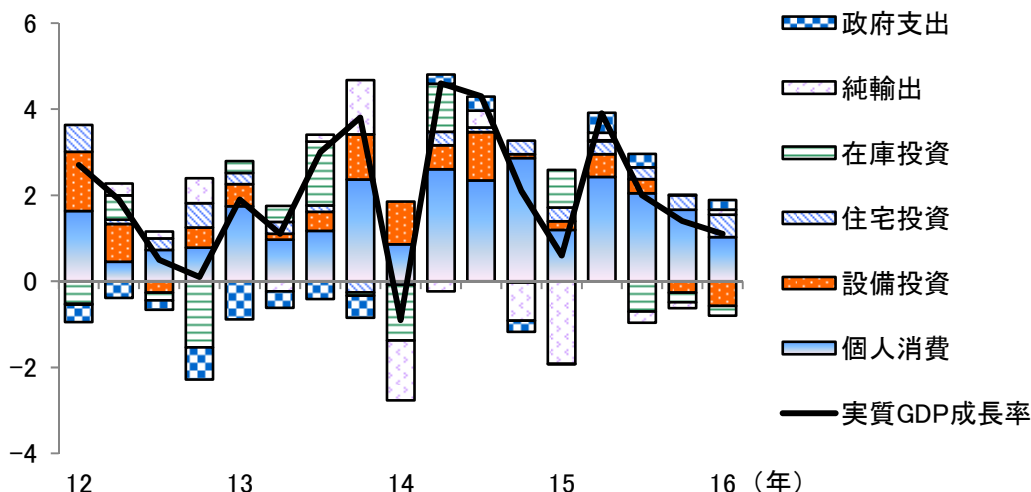
アメリカ経済グラフポケット (2016年7月号)

2016年7月13日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



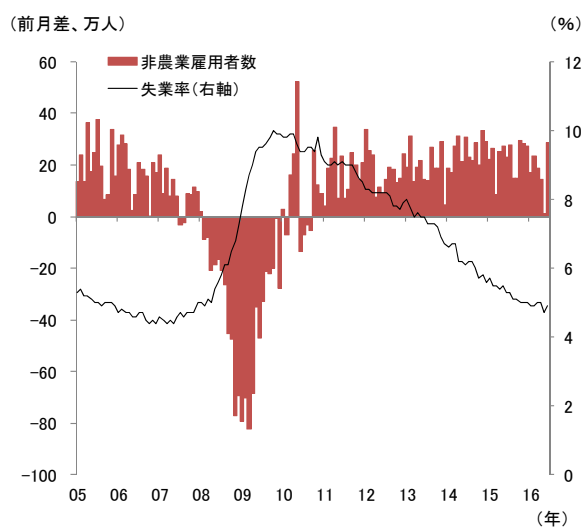
(前期比年率、%、%pt)	2014			2015				2016
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	4.6	4.3	2.1	0.6	3.9	2.0	1.4	1.1
個人消費	3.8	3.5	4.3	1.8	3.6	3.0	2.4	1.5
設備投資	4.4	9.0	0.7	1.6	4.1	2.6	-2.1	-4.5
住宅投資	10.4	3.4	10.0	10.1	9.3	8.2	10.1	15.6
政府支出	1.2	1.8	-1.4	-0.1	2.6	1.8	0.1	1.3
輸出	9.8	1.8	5.4	-6.0	5.1	0.7	-2.0	0.3
輸入	9.6	-0.8	10.3	7.1	3.0	2.3	-0.7	-0.5
寄与度								
個人消費	2.6	2.3	2.9	1.2	2.4	2.0	1.7	1.0
設備投資	0.6	1.1	0.1	0.2	0.5	0.3	-0.3	-0.6
住宅投資	0.3	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.5
在庫投資	1.1	0.0	0.0	0.9	0.0	-0.7	-0.2	-0.2
政府支出	0.2	0.3	-0.3	0.0	0.5	0.3	0.0	0.2
輸出	1.3	0.2	0.7	-0.8	0.6	0.1	-0.3	0.0
輸入	-1.5	0.2	-1.6	-1.1	-0.5	-0.4	0.1	0.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

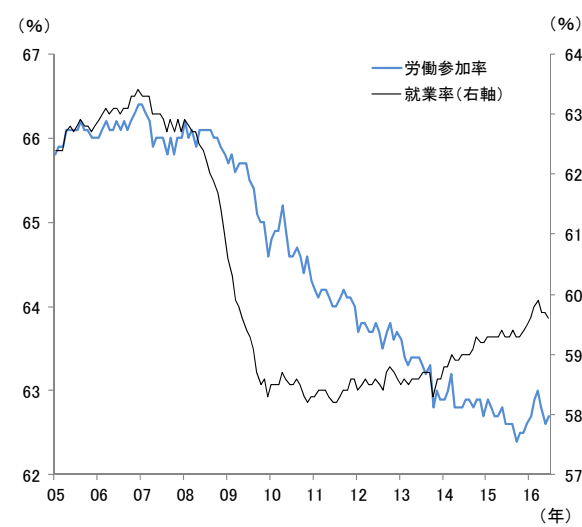
雇用環境¹

- ◆ 2016年6月の失業率は4.9%となり、前月から0.2%ポイント上昇したものの、引き続き低水準を維持している。労働参加率は前月から0.1%ポイント上昇した。
- ◆ 6月の非農業雇用者数の前月差は28.7万人増で、前月の失速から一転して急加速し、2015年10月以来の大幅な増加となった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は17.2万人増であった。

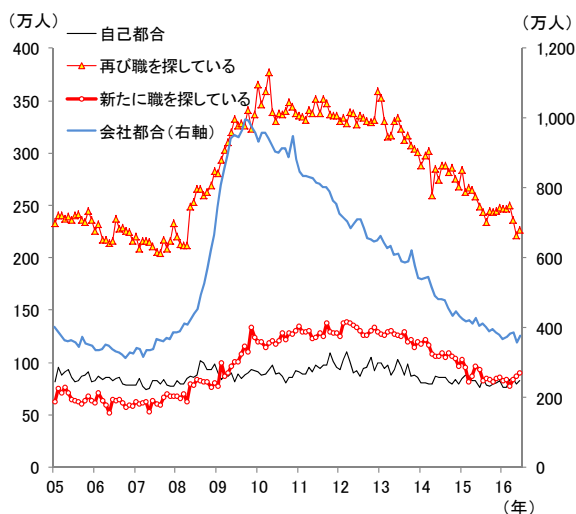
非農業雇用者数と失業率



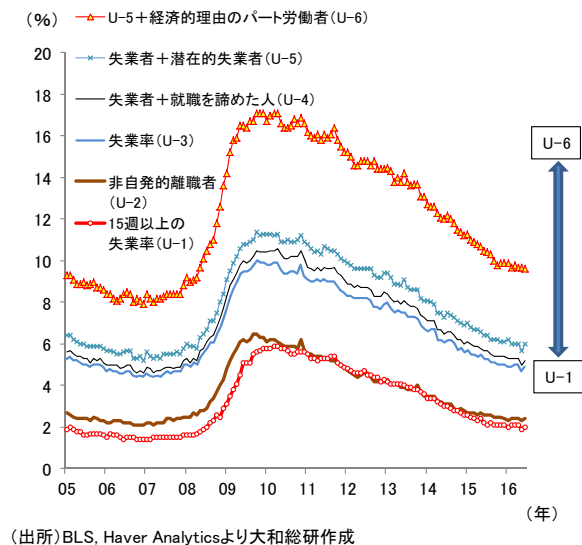
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

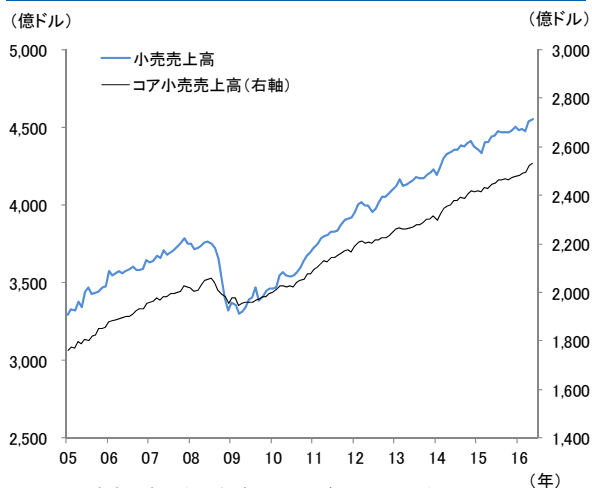


¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「前月の失速から一転、雇用者数が急増」(2016年7月11日)参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20160711_011058.html

個人消費

- ◆ 2016年5月の小売売上高は前月比0.5%増であった。前月から伸びが鈍化したものの、2ヵ月連続で増加した。コア小売売上高も同0.4%増と、7ヵ月連続で増加した。
- ◆ 6月の自動車販売台数は前月比4.5%減少し、年率換算で1,666万台であった。乗用車とライトトラックの双方の販売が前月から減少した。
- ◆ 6月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の94.7から93.5へと低下した。期待指数の低下により全体指数が押し下げられたが、高水準を維持している。

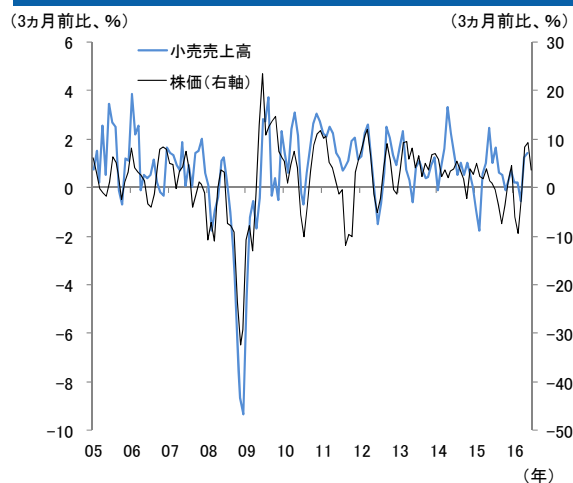
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

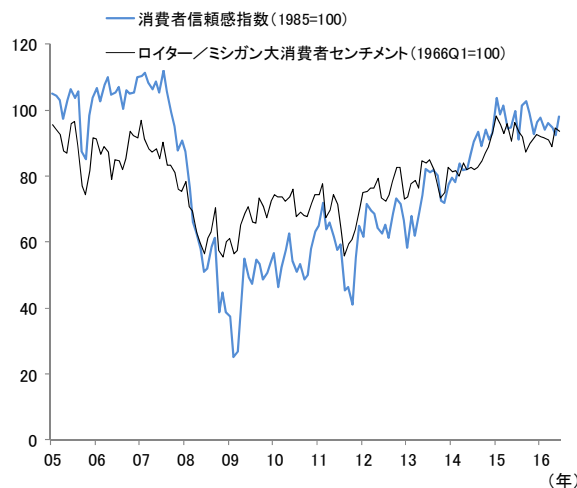
消費と株価



(注)株価はWilshire5000。

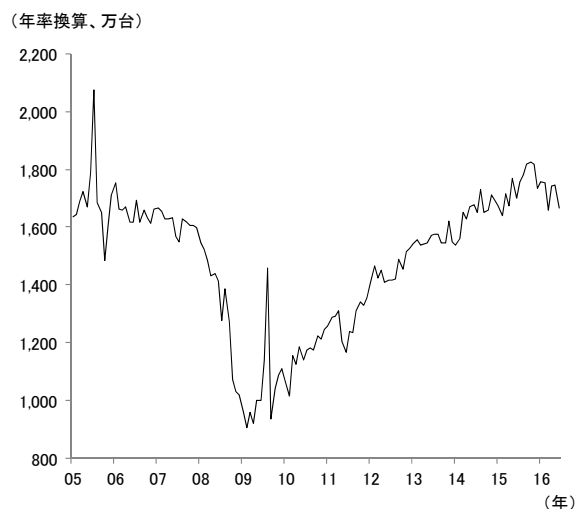
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大、Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

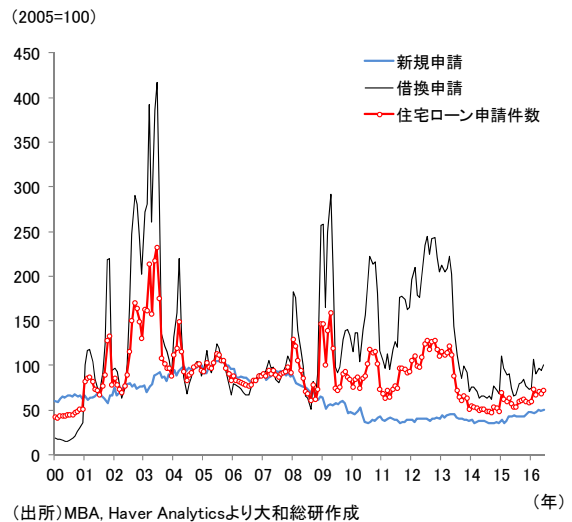
住宅市場

- ◆ 2016年5月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比0.3%減の年率換算116.4万戸であった。変動が大きい集合住宅の減少が全体を押し下げた。
- ◆ 5月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比1.9%増の年率換算490万戸であった。3ヵ月連続で増加し、2007年2月以来の高水準になった。
- ◆ 5月の新築住宅販売（一戸建て）は、大幅に増加した前月から減少に転じ、前月比6.0%減の年率換算55.1万戸となった。
- ◆ 4月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月比0.5%上昇した。上昇率は前月から鈍化したものの住宅価格は上昇傾向が続いている。

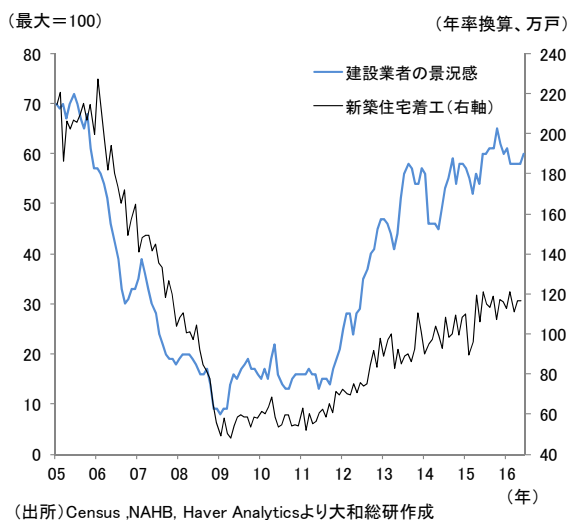
住宅販売（一戸建て）



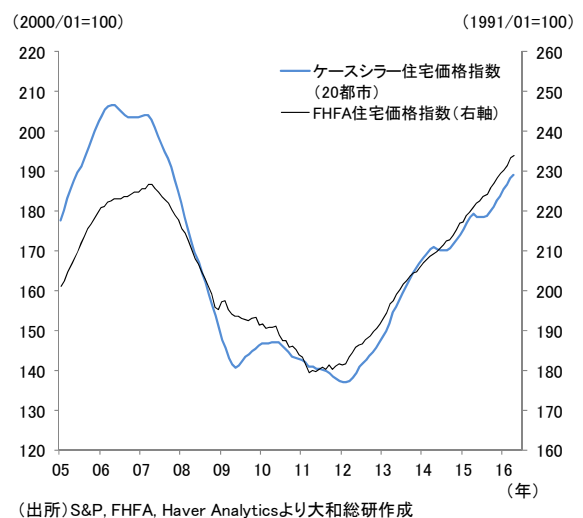
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



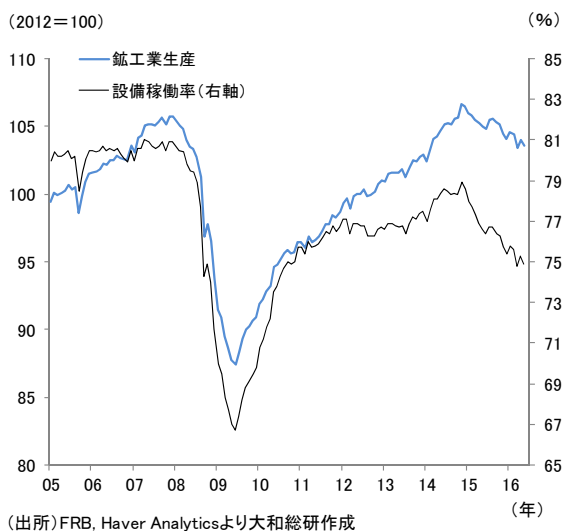
住宅価格



企業動向

- ◆ 2016年5月の鉱工業生産指数は前月比0.4%低下した。指数全体の約7割を占める製造業（SICベース）は、自動車・同部品の生産減少が影響し、同0.4%低下した。
- ◆ 5月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.4%減と2ヵ月連続で減少した。
- ◆ 6月のISM製造業指数は、前月差1.9%ポイント上昇の53.2%であった。基準となる50%を上回り、2015年2月以来の高水準となった。非製造業指数は前月から大きく上昇に転じ、3.6%ポイント上昇の56.5%と、2015年11月以来の高水準をつけた。

鉱工業生産と設備稼働率



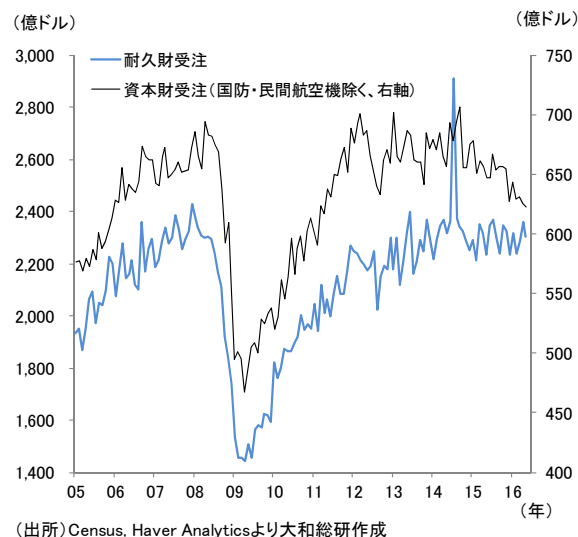
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



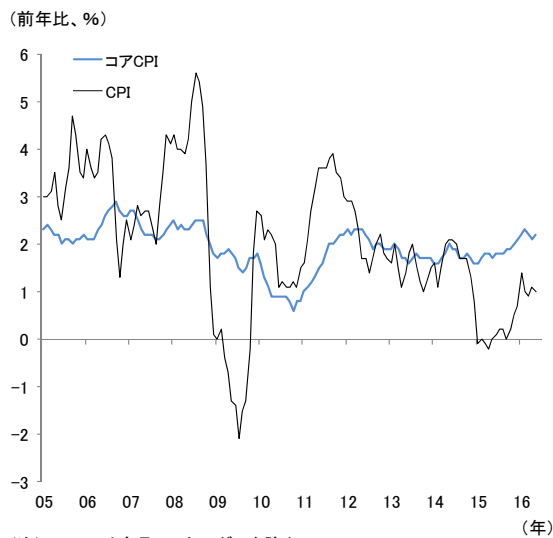
耐久財受注



物価動向

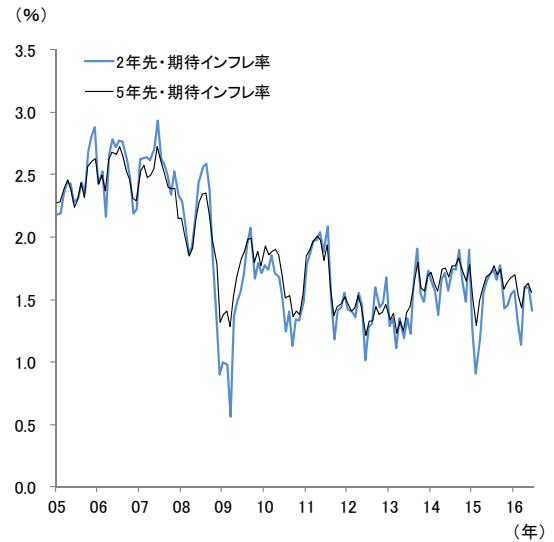
- ◆ 2016年5月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.0%上昇した。インフレ率はFRBの長期目標である2%を下回る推移が続いている。コアCPIは同2.2%上昇した。
- ◆ 6月の2年先期待インフレ率は1.41%であり、5年先期待インフレ率は1.56%と、ともに前月から低下した。
- ◆ 6月末のWTI原油先物価格は48.33ドル/バレルで、5月末の49.10ドル/バレルから下落した。

消費者物価指数



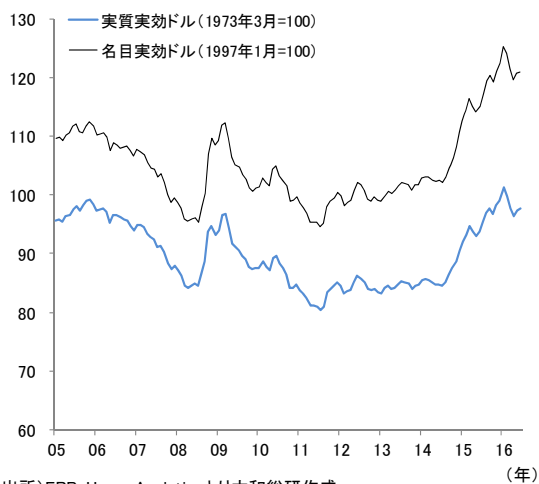
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

期待インフレ率



(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

コモディティ価格

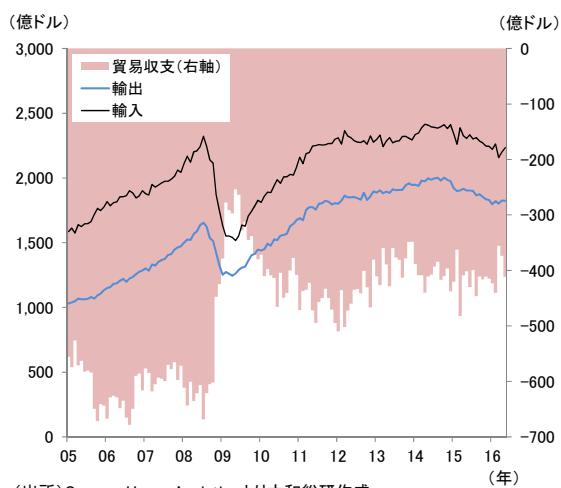


(出所)Wall Street Journal, CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

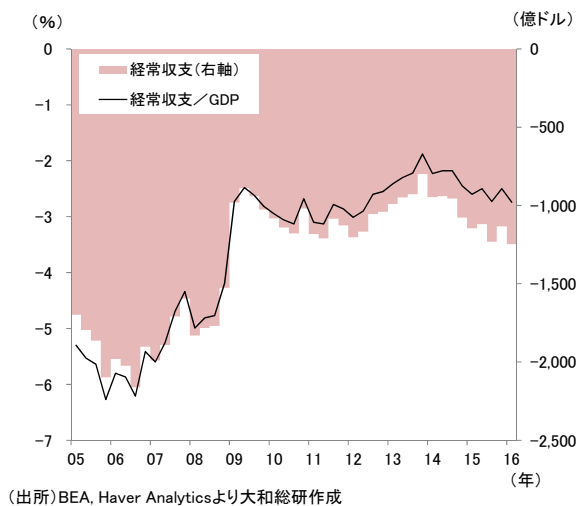
輸出入・経常収支

- ◆ 2016年5月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.2%減少し、輸入は同1.6%増加した。この結果、貿易赤字は前月から10.1%増と大幅に拡大し、約411億ドルとなった。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では航空機やコンピューター付属品などの資本財が減少した。一方の輸入は、原油価格の上昇が増加に寄与した。
- ◆ 地域別（財）では、欧州への輸出が前年比2.5%減少、中国向けが同2.8%減少、日本向けも同3.7%減少した。輸入は、欧州からの輸入が同1.3%増加したが、中国からの輸入は同3.9%減少、日本からの輸入は同7.2%減少した。

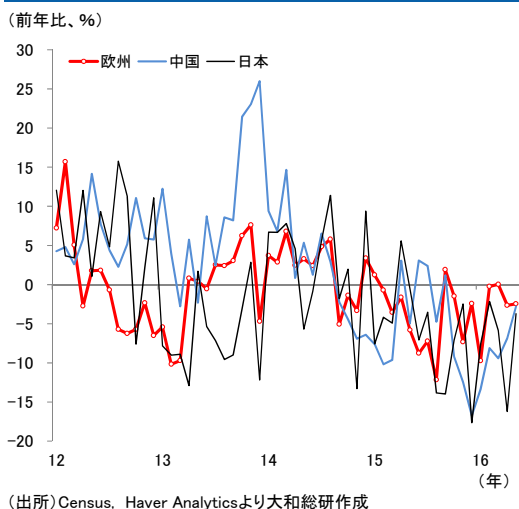
貿易収支動向



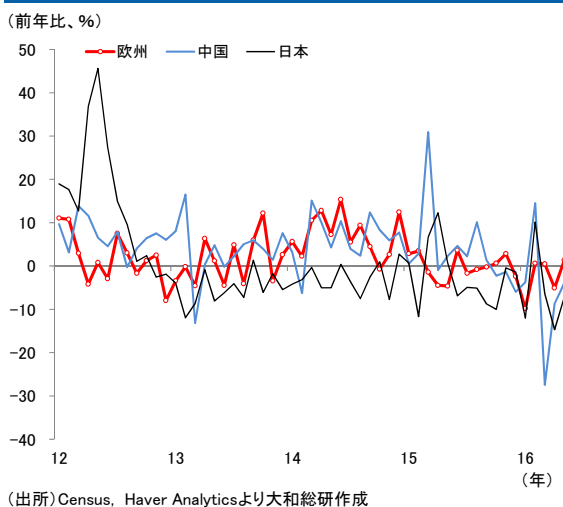
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



国・地域別輸入動向



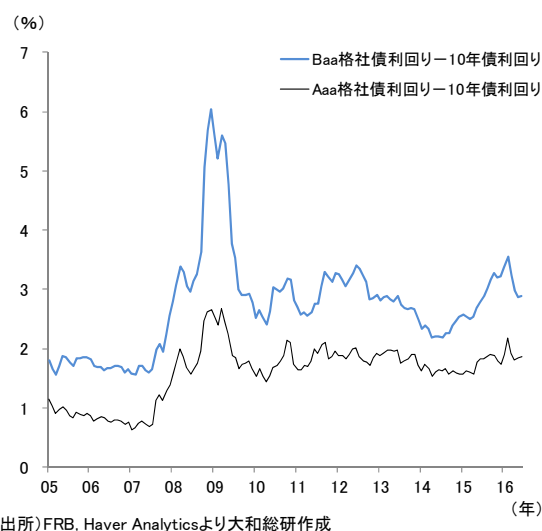
金融・財政

- ◆ 2016年6月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジは据え置かれた。また、保有する資産規模については、現在の水準を維持することが決定された。FRBの資産残高は、直近の7月6日の週平均が約4兆5,200億ドルであった。
- ◆ 6月の長期金利（10年債利回り）の平均値は1.64%となった。英国の国民投票によってEU離脱が決定したことを受け、月末にかけて大幅に低下した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小してきたが、このところ足踏みが見られている。

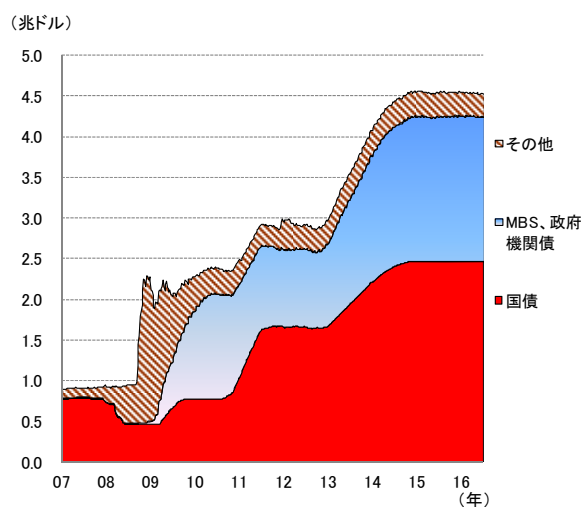
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

